

元  
詞

# 経費の増減

ノが家庭の事に専念せざる  
て國の位置中帶にあたりか  
沿何れも其極端に到らず春

## 秋の時

にして、員員を淘汰すると共に無用の官衙を廢するは政費節減の一端にして、督視廳の如きは設くるの必要なきのみか地方廳の中にも或は海道局の如きも單に臺灣總督府又は北海道廳の取次所たるに過ぎざるひととなれば別に局を廢して、廢せざる可らず臺灣事務局若しくは北洋政府の特色とす可さ所なり節す可さを節する能はず増す可さに増すを得ずんば陸長政府に事業費を増して交運なり教育なり都て萎靡したる機關を活動せしめんふとを思へばなり増すにも減するにも共に大體ならんふと我輩の切に望む所なり

日本の方が和なりと思ふは大なる誤りなり。日本の方に感ずると切なる所以にして米國紐育邊の氣度以上は東京の九十度は熱からず東京にして、空氣の濕度高しといふは即ち水分の多き所にして、日本の方に感ずると切なる所以にして、空氣の濕度高しといふは大なる誤りなり。日本の方に感ずると切なる所以にして、空氣の濕度高しといふは大なる誤りなり。

○某將軍の西  
唐宋時代の軍人になりと謂はざるを觀て其國の軍人、西班牙人敗北の様を打倒かしたる程百年前にはウエリして攘斥せし共に、かな兎も角も歐洲をさすがに、

國軍人評　國家の元軍人に影響するみると、非國民の戦争に就き余は、本部に於て充分事實を、此等の制裁に就ては暗に勝ち如何に負くるやうに思ひも寄らぬ罪を被るるもの多かりしは代議院の總選舉始末は選舉権を擴張するべき庶多ければ當局に於て公然候補者を定められ、さるものなりと云へり。裁　　今回の總選舉に憲法上の問題を厭ふに至らしめたるに感は其筋に拘引せらるゝ後若し選舉権を擴張されたるもの多かりしかば、或いは下層の選舉者中に於て公然候補者を定められ、さるものなりと云へり。於て總監以下各課長の務大臣へ上申する處わが西 spa が一敗りしが西班牙人の一敗様を開くに其下士卒は、比しても劣れるふと、ントンも西班牙人を弱得ず、今回敗北に就ては、校の意氣地なさ加減は、誰も同じ敗北にも敗北如何を知るに足るものに及べても非ず遠く左れば標括して西班牙は戦んせ評可きの解は、ントンも西班牙人を弱之を率ゐてナボレラン、非ずと雖も易れば易る文明の中に突りて敵の